

# 【第2次札幌新まちづくり計画 平成22年進行管理評価結果】

## 『政策目標3 高齢者・障がい者へのぬくもりあふれる街』

### 重点課題1 高齢者の地域生活支援の充実

#### ＜施策の基本方針＞

平成23年頃には65歳以上の高齢者が21%を超える超高齢社会を迎えると予測される中、高齢者が安心して健やかに地域生活を送れるよう、夜間対応型の訪問介護サービスなど高齢者への介護・保健福祉サービスの充実を図るとともに、多様な価値観を持つ高齢者が生きがいを持てるよう、さまざまな社会参加の機会を拡充します。

#### ● 事業費の進捗率

87.0% 算出式: (H19決算額+H20決算額+H21決算額+H22予算額) 3,609,562千円 / (計画事業費) 4,147,000千円

#### ● 施策別の主な取組内容

##### 19～21年度(実績)

###### 【施策1】社会参加の機会の拡充と社会貢献への支援

- 福祉除雪の利用世帯 12,196世帯数(のべ)
- シニアチャレンジ事業 新規8団体
- シニアサロンモデル事業 新規6カ所
- 「ねんりんピック北海道・札幌2009」の開催
- 敬老優待乗車証の申請 525,651人(のべ)
- 敬老優待乗車証の年間利用上限額を7万円に引き上げ(H21～)

###### 【施策2】高齢者の安心を支える地域福祉力の向上

- 「高齢者・障がい者生活あんしん支援センター」の運営(H20.10～)
- 法人後見事業の実施(H20.10～)
- 「さっぽろ孤立死ゼロ推進センター」の運営

###### 【施策3】介護・保健福祉サービスの充実による健やかな地域生活の支援

- 一般高齢者の介護予防事業開催回数 8,561回
- 地域密着型特別養護老人ホーム工事着手 5カ所、定員合計143人

##### 22年度(予定)

###### 【施策1】社会参加の機会の拡充と社会貢献への支援

- 福祉除雪の利用世帯 4,200世帯数
- シニアチャレンジ事業
- シニアサロンモデル事業
- 敬老優待乗車証の申請 188,637人

###### 【施策2】高齢者の安心を支える地域福祉力の向上

- 「高齢者・障がい者生活あんしん支援センター」の運営
- 法人後見事業の実施
- 「さっぽろ孤立死ゼロ推進センター」の運営

###### 【施策3】介護・保健福祉サービスの充実による健やかな地域生活の支援

- 一般高齢者の介護予防事業開催回数 2,950回
- 地域密着型特別養護老人ホーム工事着手 2カ所、定員合計58人

#### ● 市民・企業等との協働の状況

##### ■ 市民との連携、市民参加

- 福祉除雪事業：多くの住民が地域協力員として参加(21年度:2,721人)
- さっぽろ孤立死ゼロ安心ネットワークモデル事業：さっぽろ孤立死ゼロ推進会議において、福祉のまち推進センター、民生委員児童委員、老人クラブ、マンション管理組合等がメンバーとして参加

##### ■ 企業等との連携・協働

- 福祉除雪事業：地域の企業、学校、福祉施設、NPOなど様々な団体が参加(21年度:242団体)
- 敬老優待乗車証交付事業：交通事業者が利用実績額の20%を負担
- 高齢消費者被害防止ネットワーク事業：北海道警察と連携し、悪質業者への指導・取り締まり、地域の見守り強化の協力を得ている

##### ■ 市民・企業等が参加しやすい環境づくり

- 福祉のまち推進事業：活動や拠点の借上げに係る費用を支援

#### ● 評価(成果)と課題

###### 【施策1】社会参加の機会の拡充と社会貢献への支援

- はつらつシニアサポート事業：高齢者の社会参加や知識や経験を活かした地域貢献活動を促進するための枠組みとして着実に展開
- 福祉除雪事業：利用世帯の満足度が高い(21年度のアンケートにおける、利用世帯の満足度は95.6%)  
⇒①地域住民や関係団体などとのネットワークの構築による情報の共有化 ②自立的な事業運営の働きかけ ③主体的なまちづくり活動の担い手の拡大と育成

###### 【施策2】高齢者の安心を支える地域福祉力の向上

- 高齢消費者被害防止ネットワーク事業やさっぽろ孤立死ゼロ安心ネットワークモデル事業：高齢者を取り巻く今日的課題に対応するための新たなネットワークとして発展
- 高齢者・障がい者の生活あんしん支援事業：判断能力が低下した方の総合相談窓口として「高齢者・障がい者生活あんしん支援センター」を開設  
⇒①関係機関や地域とのネットワーク形成 ②活動内容の継続的な周知 ③地域での担い手となる人材の育成

###### 【施策3】介護・保健福祉サービスの充実による健やかな地域生活の支援

- 地域包括支援センターにおける相談業務や介護予防事業：高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を送るための事業として参加者が年々増加  
⇒地域包括支援センターの拡充及び人員強化

#### ● 今後の重点取組

##### ○生きがいを持って地域生活を営むために～社会参加の機会の拡充に向けて

はつらつシニアサポート事業：事業内容の周知、自立的な事業運営への働きかけや支援

##### ○住み慣れた地域で自立した生活を営むために～介護予防支援の拠点整備

地域包括支援センターの整備、介護予防センターの充実：安定した介護予防サービスの供給

#### ● 主な達成目標の状況

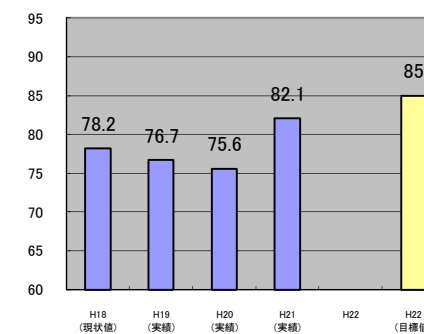
達成目標名	目標値(目標年度)	H18(現状)	H21(実績)
地区福祉のまち推進センター拠点設置数(累計)	74地区(H22)	58地区	62地区
[福祉除雪]利用世帯の満足度	90%以上(H22)	90.2%	95.6%
シニアサロンモデル事業設置数(累計)	20カ所(H22)	6カ所	10カ所
ねんりんピック北海道・札幌2009の開催	開催(H21)	開催準備	開催
消費生活みまもり協力員の配置区数	10区(H20)	—	10区
[高齢者、障がい者の生活あんしん支援]総合的な相談窓口の設置	設置(H20)	検討	設置(H20)
[さっぽろ孤立死ゼロ]市民啓発に出向いた回数(参加人数 累計)	84回(H22) (2,520人)	12回 (360人)	71回 (3,787人)
認知症サポーター養成数(累計)	9,000人(H22)	1,862人	12,013人
借上市営住宅の認定戸数	1,298戸(H22)	894戸	1,178戸
(白石区)地域における要介護者への体制づくり	全地区での取り組み(H22)	—	モデル地区で取り組み
一般高齢者の介護予防事業の開催回数	2,645回(H22)	2,645回	2,951回
[夜間対応型訪問介護]利用者数	460人/月(H22)	—	121人/月
[若年性認知症支援]交流会などへの当事者の参加者数	60人(H22)	32人	46人
高齢者ひとくち講座開設回数	180回以上(延べ)(H22)	—	128回
口腔ケアに関する介護予防事業の実施回数	500回(H22)	241回	114回

#### ● 主な施設・サービスの整備水準

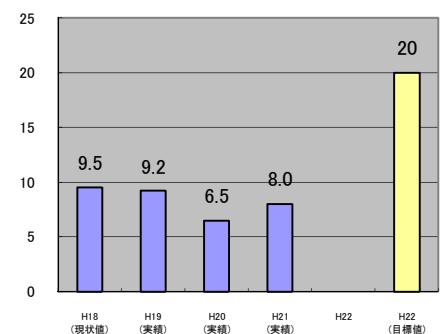
施設(サービス)名	整備水準	H18(現状)	H21(実績)
敬老優待乗車証	7万円(H22)	5万円	7万円
高齢者向け優良賃貸住宅	347戸(H22)	147戸	197戸
地域包括支援センター(介護・健康何でも相談センター)	21カ所(H22)	17カ所	17カ所
特別養護老人ホーム	56カ所(H22)	48カ所	54カ所

#### ● 成果指標等の動向

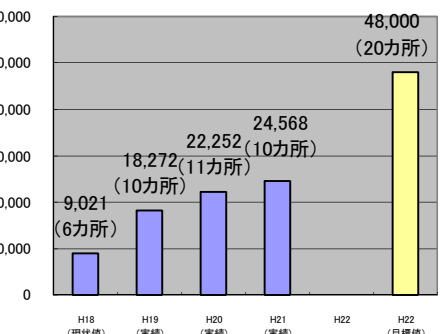
週2回以上外出する高齢者の割合(単位:%)



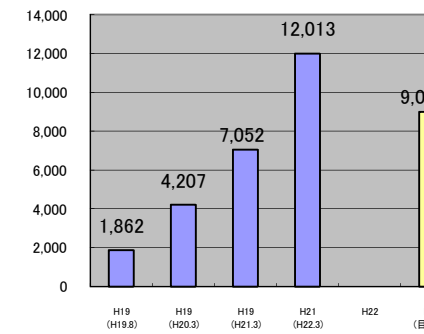
町内会やボランティア活動、老人クラブ活動をしている高齢者の割合(単位:%)



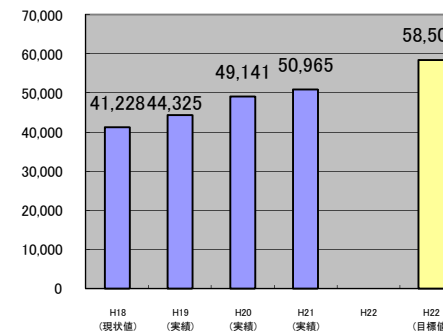
シニアサロンに参加している人数(箇所数)(単位:人)



認知症サポーター養成数(累計)(単位:人)



一般高齢者の介護予防事業への参加者数(単位:人)



転倒・骨折予防事業への参加者数(単位:人)

